

# 川崎医科大学高齢者医療センター 看護部人材育成方針



「病」を診るだけでなく、「人」の尊厳と地域での営みを守り抜く。  
4つの柱で、次世代の高齢者看護をリードする人材を育成します。

## 1. 個別性と地域生活の尊重



見える症状・治療  
見えない生活上の  
困りごと・ニーズ  
(生きづらさ、価値観、習慣)

氷山の下にある  
「生きづらさ」を捉える。

ニーズの把握：  
治療だけでは改善しにくい生活上の困りごとやニーズを的確にキャッチする

「望む生活」の支援：  
複雑な背景を理解し、住み慣れた地域で、望む暮らしを継続できるよう環境を整える

## 2. 倫理観と尊厳の保持



認知症であっても  
「本人の生き方」を最優先する。

身体拘束を行わない：  
極力実施しない方法を検討し、やむを得ず実施する場合も必ず、外す時間を設ける

QOLを重視した意思決定支援：  
高齢者の生活が持続可能かという視点で治療選択を考える

## 3. 多職種連携と退院支援



地域リソースを活用した「治し支える医療」。

退院後を見据えた目標共有：  
患者・家族と目標を共有し、院内外が多職種と協働して生活の質を担保する

切れ目のない支援：  
地域包括ケアシステムや在宅看護の仕組みを熟知し、地域連携による退院支援・指導を行う

## 4. 専門知識と アセスメント力の向上



五感を駆使した「高度なアセスメント」。

鋭敏な観察力：  
検査結果や機器だけに頼らず、「何かおかしい」と察知する観察力を磨き、重症化を予防する

高度な専門性の習得：  
認知症看護や誤嚥性肺炎のメカニズム、摂食嚥下リハビリテーションなど、高齢者看護に不可欠な専門的知識や技術を積極的に習得する

私たちは、その人らしい人生を最期まで支える伴走者です。